



オランダ国際球根協会ニュースレター 2010年02月号 VOL.011

CONTENTS

オランダ大使館「ジャクリーン v.d クルト・ガーデン」の様子は今どうなっているでしょうか？
 JELFA セミナーでオランダのプロモーションを学ぶ (2月26日・ホテルコムズ大田市場)
 2010年のキューケンホフ公園、シーズン間近！チューリップだけではありません
 キューケンホフ公園成り立ちの物語を知る
 やっぱりすごい、オランダの「フラワーコルソ」
 「球根サミット」各地で開催 デモとディスカッションに手応え
 IBC「フレッシュ・チューリップ・プロジェクト」首都圏で実施中
 JFI トレードフェアに出展します 大田市場 FAJ (2月27日)・豊明市場 (3月6日)

CONTENTS

オランダ大使館「ジャクリーン v.d クルト・ガーデン」の様子は今どうなっているでしょうか？



2月1日の夜から降った雪は、珍しく東京でもうっすらと積もりました。大使館も雪化粧。(画像はすべて写真家中島清一氏)



12月3日にジャクリーン・スタイルで球根を植えたオランダ大使館の球根たちは、今、どうなったでしょうか。写真家中島清一さんをお願いして写真を撮って送っていただきました。遠目からはまだなんの兆しもないように見えますが、近づいてみると、小さな赤い芽が動き出していました。この寒さの中、球根はすでに花を咲かせる準備をしています。これから3月にかけて、寒暖のリズムが繰り返されるなかで、ちょっとずつ確実に大きくなっていきます。

必見！ JELFA セミナーでオランダのプロモーションを学ぶ 2月26日（金）

JELFA（NPO 日本 ELF システム協会）のセミナーが2月26日に行われます。今回は、「オランダの事例に学ぶ消費拡大の方法」がテーマ。講師は、オランダの商業者組織 Anthos（オランダ王国花き球根・植木貿易協会）のヘンク ウェスターホフ会長。演題は「球根および球根花きのパワーはどこから来るのか」。

テーマ 「花き業界の消費拡大を目指して オランダ Anthos に学ぶプロモーション・消費宣伝方法
～オランダの実例から、日本の花き業界が進む道を探る～」



ヘンク ウェスターホフ 会長

「JELFA セミナー2010 では、商業者の組織 Anthos（オランダ王国花き球根・植木貿易協会）のプロモーション・消費宣伝方法について ヘンク ウェスターホフ氏（Anthos 会長）をお招きし、資金の運用方法、どのようにプロモーション、宣伝をしているかをお話いただきます。一世紀以上も前から、球根および球根花きの生産および取引の中心を担って来たオランダ。この成功のキーファクターが何であり、Anthos がどんな役割をしてきたのか。現在もオランダは世界でも有数なキープレイヤー。しかし、国際競争の動きは年々激しくなっています。今後さらに世界中で市場競争が進む中、いかにして現在の地位を維持していくのか？オランダの取り組みから、日本の花き業界が進めるべきビジョンを考えましょう。」



日時：2010年2月26日（金） 13:30～16:30

場所：東京都 大田区 ホテルコムズ大田市場 地下1階

会費：会員 8,000円 一般 10,000円

詳しい内容・お申し込み方法は JELFA まで。早めのお申し込みを！

<http://www.jelfa.net/seminar/forum/index.html>

2010年のキューケンホフ公園、シーズン間近！チューリップだけではありません

チューリップの国オランダに観光に行くなら当然、春。その代表といえばキューケンホフ公園です。今年の開催は3月18日から5月の16日。32ヘクタールもあるという園内は歴史を感じさせる巨木や池がありチューリップ以外にも水仙、ヒヤシンス、ムスカリ、フリチラリア、アリウムなどなどありとあらゆる球根植物の姿を見ることができます。これらは、93の球根生産・輸出入会社が球根を提供しショーウインドウのような役割をしています。展示は、屋外だけでなく園内のパビリオンでも行われており、これらはぜひ見ておきたい場所です。



ベアトリクス・パビリオン では見事な蘭の展示があり、オレンジ・ナッソー・パビリオンでは、毎週新しい花が展示されています。また、世界最大規模のユリのショーも有名です。今年も5月6日から16日まで、ウィレム・アレクサンダー・パビリオンで、300種、3万本以上のユリが展示される最大規模の展示会が開催されます。

キューケンホフ公園は、公開期間中は朝早くからオープンしています（午前8時～午後7時半）。お散歩をかねて朝から公園内を歩くのもとても気持ちの良いものですよ。おすすめします。

http://www.holland.or.jp/nbt/holland_flower_circulate_keukenhof.htm

キューケンホフ公園 成り立ちの物語

球根植物専門の公園として世界に名高いキューケンホフ。オランダの球根の歴史は非常に長いのですが、今回はその中で1949年設立のリッセ市にあるキューケンホフ公園を取り上げます。



そもそもキューケンホフとは、ファンリンデン伯爵所有の狩猟地ザンドフリットにある城館の名前です。1949年1月1日に、当時のリッセ市の市長がキューケンホフ館を防火訓練のために訪れた際に、「屋外球根展示会」というすばらしいアイデアがひらめきました。

キューケンホフの所在地はリッセ市ですが、近隣の北海に面するリゾートでもあるノールドワイク市も忘れてはなりません。時代はさかのぼりますが、ノールドワイク市近辺の球根生産者も1860年頃からすでに精力的に活動をおこなっており、周年オープン屋外展示会を企画していたノールドワイク関係者と、リッセにあるファンリンデン伯爵領地のザンドフリットで同様の展示会開催を考えていたリッセ関係者との接点ができることになりました。

1943年にはドイツの占領軍がキューケンホフ城館に司令部を置くなど、ザンドフリットの領地は荒れ果てます。戦後間もない1949年1月15日、領地と館の修復と維持に頭を悩ましていた伯爵の元へ、リッセ市長から一つの提案が提出されることになりました。今後10年間、展示会用地として貸し出してもらうかわりに、修復等を開催者側が請け負うというどちらにとっても有利な話でした。

様々な意見、趣向の違いもあり、決して容易な道のりではありませんでしたが、1949年8月13日に全国球根展示会キューケンホフ財団が創立され、翌1950年3月23日、第一回展示会が、当時の農林水産大臣の手で晴れてオープンされることになりました。（オランダの雑誌 Bloembollen Visie から）

オランダの春の観光のメインであり続けるキューケンホフ。今年の開催は3月18日から5月16日。詳しくはサイトをご覧ください。 <http://www.keukenhof.nl/>

やっぱりすごい、オランダの「フラワーコルソ」(パレード)事情

園芸の国、花の国 オランダでは年間を通して全国で約20件のフラワーコルソが開催されます。その中で有名なものに 花市場のお膝もと、アールスメアのフラワーコルソがありましたが、2年前にメイン

スポンサーである花市場が降りたため、残念ながらその長い歴史を閉じることになりました。

花き園芸産業のプロモーションとしては、ラインスブルグのコレソが依然奮闘しています。このようなプロモーションイベントでは、コレソワゴンと呼ばれる山車のアレンジは、プロのアレンジャーが行い、山車のカートの基礎は遊園地等のアトラクションを制作する会社が請け負っています。しかし、運営委員会、救急要員、音楽隊、交通整理など スタッフの80%はボランティアの力。世界的な金融危機の影響は、フラワーコレソにも影を落としており、どの運営委員会もスポンサー探しに難航しています。アールスメアの例からも、一つのメインスポンサーに頼るリスクは身にしみて感じているようです。



オランダ人はパレード好きと見えて、全国の市町村で様々なコレソが行われています。そのほとんどが園芸セクターとは無関係。もともとは、女王の誕生日や、会社のお祝い事、村祭りに、最初は自転車やボーターカーと呼ばれる手押し車などに花飾りをしたのが始まり。それが今や一つの山車が20メートルもあり、費用が数百万ユーロを越すものもあります。

コレソの参加者は主に町内会のようなグループ、有志の集まりなど。このようなコレソで一般に使われる花はダリアです。その理由はなんと言っても豊富な色合いにあります。フラワーアレンジというよりも、純粹に山車デザインの色どりに使われ、またダリアの丈夫さもメリットのひとつで、接着剤や、釘によって固定されます。

町内会が独自のダリア畑を所持しており、採花された花は全国的なデータバンクに登録され、山車制作スタッフは必要な色の花を、あらかじめ設定されている定価で注文できるようなシステムになっているそうです。



企業スポンサーももちろんありますが、コルソの山車には広告をつけてはいけなくなっています。コルソが通るルートは特別に区切られており、5から10ユーロといった入場券を購入して見物できるようになっていることが多い。山車には広告禁止ですが、コルソが通るルート上に広告を出しても良いことになっています。

前述のとおり、スポンサー探しは困難をきわめていますが、どのコルソでも数多くのボランティアと熱狂的な観客の力が一番大切。まだまだコルソの人気には根強いものがあります。(オランダの雑誌 vakblad から)

春を告げるフラワーコルソとして、キューケンホフ公園の開催期間中、今年は4月の24日(土)に、球根生産地域であるノールドワイクからハーレムにかけて40Kmのルートで球根花のコルソが開催されます。20台ものコルソ山車と華やかに飾り付けられた乗用車30台がパレード。前日の23日の夜には、ノールドワイクでライトアップコルソが見られます。その球根花を使った春の色と、ヒヤシンスなどの春の香りは見事としか言いようがありません。春の顔と呼ばれるほどの季節の風物詩にもなっています。

<http://www.bloemencorso.info/>



春の球根花コルソに引き続き、8月、9月はフラワーコルソが目白押し。その中でも、7月31日、8月1日、2日のウエストランドのコルソ(これは山車ではなくボートを使う)、8月15日のラインスブルグ、8月21日のシントヤンクロースター、9月6日、7日のズンデルトなどが有名です。

その他のコルソに関する日程は次のサイトで紹介されています。
Corso-website:

www.vakbladvoordebloemisterij.nl/aanvullingen

「球根サミット」各地で開催 デモとディスカッションに手応え

IBCは、大田市場を皮切りに「花芽付き鉢植え球根」の展示とデモンストレーション、意見交換を行う「球根サミット」を各地で実施しました。(1月13日大田市場、23日世田谷市場、2月8日豊明市場)



オランダではクリスマスからイースターまで活躍する1球植えの「花芽付き鉢植え球根」という商品は、日本では今まであまり注目されてきませんでした。「球根サミット」では、芽吹き出す春らしいイメージと色、香りを備える球根の魅力を「屋外からインテリアへ」「ギフトからホームユースまで応用できる」「春まで待たなくてもすぐに楽しめる」などの視点で紹介しました。



透明なフラコンに注目

思わず手に取りたくなる形

豊明で好評だった商品

花屋さん（多摩花賣所）の店頭にて

IBC「フレッシュ・チューリップ・プロジェクト」首都圏で実施中



都立大学

3年前に始まった IBC による切花チューリップの販売プロジェクトが今年も現在進行中です。チューリップ専用のオリジナル什器を開発設置し、一定期間販売することでさまざまなリサーチを行うことを目的としています。今年も、JA 新潟みらいと（株）大田花き、仲卸の（株）アドブルームを始め関係各者にご協力をいただき、東急（セルフと対面）と西武線沿線（駅店舗）で調査を行っています。東急は、都立大学、自由が丘、白金台、溝の口、あざみ野各店（1月16日～）。また西武沿線は、池袋と所沢の駅店舗です（1月29日～）。いずれも好調なすべり出しというところです。3月下旬までを予定しています。この調査の結果等については、また改めてお伝えします。



所沢

池袋

自由が丘

JFI トレードフェアに出展します - 大田市場 FAJ（2月27日）・豊明市場（3月6日）



IBC は、JFI グループ（東京・愛知）のトレードフェアにブース出展します。球根植物の様々な魅力をお伝えします。ぜひ、お越しください。お待ちしております。

FAJ（大田市場）のトレードフェア春は、2月27日（土）

http://www.faj.co.jp/01_CORPORATE/000_NEWS_UPDATE/2009-055/index.html

豊明花き（豊明市場）のトレードフェア春は、3月6日（土）

http://www.toyoake.or.jp/kaki/event/tradefair/exhibit_prospectus_for_exhibitors.html

Bulbs in Pot 「芽付き鉢植え球根」キャンペーンの反響に驚いています。あちこちのお花屋さんの店頭で見かけるとうれしくなります。切花チューリップもシーズンイン。市場や小売店など、さまざまところでフェアが行われています。もう春ですね。

オランダ国際球根協会ニュースレター第 011 号 発行：オランダ国際球根協会
 HP：<http://www.kyukon.org/> メールアドレス ibc@aurorajp.com